

令和4年度 学校評価のまとめ

分類		質問項目	一昨年 (R2)	昨年度 (R3)	本年度 (R4)	評価	自己評価	学校関係者評価
学校運営全般	生徒1	本校に入学して良かった。	3.54	3.73	3.74	A	生徒・保護者共に本校に対する評価が高いことは喜ばしい。生徒、保護者、地域の期待に応えるため、本校のスクールミッションや育てるべき生徒像、資質・能力について教職員で共通理解を図り、更なる充実を図っていく。	今後もこのような高い評価を維持できるように学校経営を推進してもらいたい。
	保護者1	本校に入学させて良かった。	3.68	3.67	3.65	A		
	教職員1	本校は、生徒・保護者の期待やニーズに応える教育活動を行っている。	3.45	3.50	3.64	A		
開かれた学校づくり	生徒2	学年通信、各種便りなどによって、本校の情報がよくわかる。	3.26	3.16	3.19	B	質問2、3について、学校が発する情報が保護者にうまく伝わっていないようだ。保護者向けの便り等のほとんどは、生徒を介して配布しており、はなまるメール等の活用により、確実に保護者に周知する方法を検討していく。ホームページについても、教育計画や事務連絡はもちろん、学校行事や部活動における生徒の活動を伝える大切な手段であり、情報を随時更新しながら、魅力あるホームページ作りに取り組んでいく必要がある。 質問4の中学生への広報活動に関する生徒・保護者の評価が上昇している。オープンハイスクールや飾西オープンスクールには多数の参加者があるのは喜ばしいことであり、本校の魅力・特色がより効果的に伝わるよう工夫したい。 問5の学校行事への参加については、コロナ禍が続く中、少しずつではあるが従来の形で学校行事を実施し始めており、できる限り保護者や地域の方々の参加も拡大していきたい。	情報発信の面で、教職員に対して、生徒、保護者の評価が低くなっているということは、発信する内容がうまく伝わっていないということを認識する必要がある。 情報発信については、ホームページのみではなく、メールやSNSの活用も検討するとよい。その際、Q&Aのような双方向で発信できるシステムがあるとよい。 ホームページに関する評価が低くなっている。学校の様子を発信する大切な方法の一つであるので、魅力あるホームページづくりに取り組んでほしい。 学校の広報活動については、中学生に限らず小学生高学年にも、また地域にも広げていってほしい。 学校行事については、コロナ禍で仕方ない面はあるが、保護者や地域と繋がる機会であるため、以前の状態に少しずつ近づけていってほしい。
	保護者2	学年通信、各種便り、はなまる通信などによって、本校の情報が得られている。	3.26	3.22	3.27	B		
	教職員2	教育活動の情報を、学年通信や各種便り、はなまる通信等を通じて発信している。	3.67	3.76	3.56	A		
	生徒3	本校のホームページは適切に更新されている。	3.09	3.08	3.05	B		
	保護者3	本校のホームページは適切に更新されている。	3.14	3.15	3.08	B		
	教職員3	本校のホームページは適切に更新され、学校の広報に効果を上げている。	3.17	3.42	3.25	B		
	生徒4	学校は、説明会やオープンスクールなど中学生への広報活動を積極的に行っている。	3.21	3.06	3.24	B		
	保護者4	学校は、説明会やオープンスクールなど中学生への広報活動を積極的に行っている。	3.03	3.28	3.39	B		
	教職員4	学校説明会や中学校訪問等の広報活動を積極的に行っている。	3.50	3.50	3.42	A		
	生徒5	学校行事等に保護者や地域の方々の参加があり、交流が図られている。	2.85	2.57	2.64	C		
保護者5	学校行事等に保護者や地域の方々の参加があり、交流が図られている。	2.70	2.86	2.86	B			
教職員5	学校行事等に保護者や地域の方々の積極的な参加・協力があり、交流が図られている。	2.95	3.05	3.11	B			
生徒指導	生徒6	学校は、基本的な生活習慣を守り、規律ある学校生活をするよう、適切な指導をしている。	3.51	3.43	3.40	B	質問6については、校則の見直しでかなり緩やかな校則に変化してきている。ルールで縛るのではなく、生徒たちが自ら考え、自分を律していけるように導く指導をしていく。 質問7については、毎朝の交通指導や考査中の下校指導、集会での呼びかけ、HRでの指導など、いろいろな場面で指導をしている。あとは生徒自身が自分事として公共の場でのふるまいをより良いものにしていけるかどうか。家庭や地域との連携の更なる強化も必要である。 質問8については、「いじめを抑止し、いじめを許さない学校づくり」の生徒評価が昨年と今年が3.16 3.19と低い数値になっている。いじめアンケートではなかなか表面化しないが隠れた部分で起こることが起きている可能性がある。担任の面談や保護者との面談、また、部活動においても人間関係などで問題があれば、気軽に相談できる雰囲気づくりが大事になる。さらなる早期発見、未然防止に努めたい。	基本的な生活習慣や公共マナーなどは、社会に出た時には必須であるので、粘り強く指導していく必要がある。 ルールやマナーについては、例えば生徒会が中心となって、教員や保護者と話し合いながら、生徒が主体的にルールづくりに参加することも必要である。 いじめについて、保護者や教職員に比べて、生徒の数値が低くなっている。いじめ防止は、明るい学校づくりには必須であり、悩みなどを気軽に相談できる体制づくりが必要である。 SNS等でのいじめも多発しているため、ネットリテラシーやネットマナーに関する意識づけに加え、生徒のちょっとした変化を見逃さない体制づくり、いじめをしない、させない風土づくりを進めてもらいたい。
	保護者6	学校は、基本的な生活習慣を身に付け規律ある学校生活をするよう、適切な指導をしている。	3.40	3.56	3.54	A		
	教職員6	学校は、基本的な生活習慣が身に付くよう機会を見つけて指導している。	3.31	3.39	3.36	B		
	生徒7	学校は、交通ルールや通学マナーを守るよう適切な指導をしている。	3.57	3.39	3.36	B		
	保護者7	学校は、交通ルールや通学マナーを守るよう適切な指導をしている。	3.37	3.66	3.69	A		
	教職員7	学校は、交通ルールや通学マナーを守るよう適切な指導している。	3.55	3.55	3.56	A		
	生徒8	学校は、「いじめを抑止し、いじめを許さない学校づくり」に積極的に取り組んでいる。	3.40	3.16	3.19	B		
	保護者8	学校は、いじめ防止基本方針に基づき、「いじめを抑止し、いじめを許さない学校づくり」に積極的に取り組んでいる。	3.20	3.50	3.54	A		
教職員8	学校は、いじめ防止基本方針に基づき、「いじめを抑止し、いじめを許さない学校づくり」に積極的に取り組んでいる。	3.60	3.63	3.72	A			

令和4年度 学校評価のまとめ

分類	質問項目	一昨年 (R2)	昨年度 (R3)	本年度 (R4)	評価	自己評価	学校関係者評価		
教職員の 資質向上	生徒9 模試の結果からの情報は、学習を進めるのに役立っている。	3.56	3.06	3.14	B	質問9では、生徒の模試に対する評価は昨年より高くなったものの、生徒それぞれに必要な学力や進路選択について自ら考える材料となるよう、生徒への提示内容や方法について工夫が更に必要である。 質問10では、本年度1年生より生徒各自がタブレットを持つことになり、ICTを活用したわかりやすい授業展開が必要となる。効果的な活用方法について、教科を超えて共有しながら、授業改善に取り組んでいく。 質問11は、本年度から観点別評価が1年生より導入された。指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲を促す評価の在り方を引き続き検討していく。	授業内容や指導方法に関する生徒の高い評価は、教員への信頼を表しており、喜ばしい。 タブレット等のICT活用は、今後の社会で求められるスキルの1つであり、授業づくりにも不可欠であるため、教職員のスキルアップが必要である。一方、活用だけが目的化せず、アナログ的な手法も交えながら、目的に応じた使い分けが求められる。 生徒の個性を見つけ、引き出せるよう、評価方法を多様化させてながら、様々な視点から生徒を見守る姿勢が大切である。		
	保護者9 模試の結果から進路選択に必要な情報や知識が学校から提供されている。	3.09	3.60	3.57	A				
	教職員9 模試のデータを分析し、生徒に進学に必要な情報を伝えている。	3.61	3.34	3.50	A				
	生徒10 先生は授業内容や指導方法の工夫・改善に努めている。	3.44	3.40	3.40	B				
	保護者10 先生は、生徒の学力向上のために熱心に学習指導をしている。	3.43	3.48	3.44	A				
	教職員10 授業相互参観、生徒による授業アンケートなどを実施し、指導方法の工夫・改善に努めている。	3.33	3.26	3.31	B				
	生徒11 各科目の学習評価は適切に行われている。	3.51	3.36	3.37	B				
	保護者11 各科目の学習評価は適切に行われている。	3.36	3.55	3.56	A				
	教職員11 各教科・科目において、評価基準や評価方法について議論し、適切に行っている。	3.14	3.11	3.17	B				
学力向上	生徒12 学校は、少人数授業や習熟度別授業を実施し、学習内容の理解・定着に努めている。	3.43	3.11	3.09	B	質問12については、生徒の評価が下がっている。少人数授業や習熟度別授業が生徒にとって学習内容の定着に向けた意義のあるものになるよう、クラス編成や指導法について検討を進める必要がある。 質問13、14については、生徒の自主的な学習習慣の確立に向けて、課題・小テストの内容や形態が適切か否かを各教科で検証するとともに、全体的な量やタイミングについて教科間で調整する必要がある。	保護者、教職員に対して、生徒の評価が低くなっている。各生徒の習熟度に対応できるよう、そして生徒自身が少人数授業、習熟度別授業の意義を実感できるよう、検証する必要がある。		
	保護者12 学校は、少人数や習熟度別などのきめ細かい学習指導を行い、学習内容の理解・定着に努めている。	3.18	3.43	3.43	A				
	教職員12 少人数授業や習熟度別授業を積極的に取り入れ、個々の生徒に応じた学習内容の理解・定着に努めている。	3.40	3.32	3.36	B				
	生徒13 与えられる課題(宿題)・小テスト、予習・復習のチェックなどは、家庭学習の習慣づけに役立っている。	3.37	3.30	3.28	B				
	保護者13 与えられる課題(宿題)・小テスト、予習・復習のチェックなどは、生徒の家庭学習の習慣づけに役立っている。	3.34	3.42	3.37	B				
	教職員13 生徒の家庭学習の確立のため、課題、小テスト、家庭学習アンケート、個別指導の実施など様々な工夫をしている。	3.50	3.37	3.58	A				
	生徒14 課題・小テストや授業の予習・復習は、学力定着・向上に役立っている。	3.48	3.37	3.32	B				
	保護者14 課題・小テストや授業の予習・復習は、生徒の学力定着・向上に役立っている。	3.35	3.49	3.46	A				
	教職員14 課題・小テストの実施や予習復習の習慣化が日々の授業展開や学習内容の定着に役立っている。	3.12	3.42	3.31	B				
	生徒15 自分の将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されている。	3.38	3.08	3.10	B			質問15では、生徒、教職員ともに情報提供が十分でないと感じており、生徒が進路目標を設定するために、段階的なプロセスや適切な情報提供の在り方について、更に検証する必要がある。 質問16については、土曜ゼミも含めた補習の在り方を変えたが、授業の更なる工夫や個別指導など、学力向上を促す方法を引き続き検討したい。 質問17は、生徒が面談にどのようなことを求めているのかを把握するとともに、生徒と十分に意思疎通を図り、進路目標の設定や学習意欲の喚起に繋がってほしい。	大学に入ることだけでなく、生徒が何を学びたいのかを見つめられるような情報提供や面談などの個別指導の在り方が求められている。 将来の目標や進路が明確にある生徒も多いためと考えるので、丁寧かつ継続的な指導が必要である。 進路目標の確立については、同窓生等の社会人に、自身の職業や社会人としての意識、後輩への助言等について、生徒に直接話してもらう機会を増やすことが有効である。
	保護者15 将来について考え、進路目標を明確にするための情報が学校から提供されている。	3.14	3.48	3.42	A				
	教職員15 大学・学部・学科の特徴や多様な職業についての情報を与え、生徒の能力・適性を考えさせている。	3.55	3.29	3.26	B				
	生徒16 自分の進路目標に合った学力向上のための指導が展開されている。	3.24	2.99	3.10	B				
	保護者16 生徒の進路目標に合った学力向上のための指導が展開されている。	3.06	3.17	3.33	B				
	教職員16 生徒の進路実現に向け、実態とニーズに合った学力向上のための指導を行っている。	3.19	2.92	3.39	B+				
生徒17 面談など個別の指導は、進路目標に向かって取り組む上で役立っている。	3.48	3.30	3.35	B					
保護者17 面談など個別の指導は、進路目標に向かって取り組む上で役立っている。	3.29	3.55	3.54	A					
教職員17 進路決定のため、生徒や保護者との面談の機会を十分に設けている。	3.60	3.45	3.53	A					

令和4年度 学校評価のまとめ

分類	質問項目	一昨年 (R2)	昨年度 (R3)	本年度 (R4)	評価	自己評価	学校関係者評価
学力向上	生徒18 定期考査の結果は、その後の学習指導に生かされている。	3.40	3.15	3.13	B	質問18の定期考査後の学習指導については、保護者、教職員は生徒の学習に役立っていると感じているにもかかわらず、生徒の受け止めは若干低めの傾向である。適切なフィードバックを行い、生徒自身が学習状況を振り返り、改善への方策を主体的に考えさせる機会としていきたい。 質問19の自主的な学習習慣は毎年課題となっている。「教え込む」指導から、「考えさせる」指導への転換を図っていく必要がある。	学校での学習時間は、現状ではこれ以上増やすのは難しいため、やはり効率性の改善、家庭学習の定着、目的意識の向上を促していくしかないと考えられる。 生徒が自主的、主体的に学習に取り組めるよう、指導方法を改善してもらいたい。
	保護者18 定期考査の結果は、その後の生徒の学習に役立っている。	3.15	3.42	3.44	A		
	教職員18 定期考査の結果は、その後の生徒の学習に役立っている。	3.17	3.16	3.23	B		
	生徒19 学校は、生徒の自主的な学習習慣が育つよう適切な指導をしている。	3.39	3.18	3.18	B		
	保護者19 学校は、子どもの自主的な学習習慣が育つよう適切な指導をしている。	3.19	3.43	3.40	B		
	教職員19 教職員は、生徒の自主的な学習習慣が育つよう適切な指導をしている。	3.00	3.11	3.17	B		
特別活動 (学校行事)	生徒20 楽しい学校行事があり、私は学校生活に充実感を感じている。	3.13	3.32	3.40	B	今年度は3年ぶりに平常の形での「鷹山祭」が開催でき、球技大会や綱引き大会も従来の形で行うことができた。いずれも、感染予防に気をつけながらではあったが、生徒たちの生き生きとした姿があり、主催の生徒会の生徒たちも達成感があつたようである。しかしながら、大きな行事が2年間も空白になったことで、生徒たちはイメージをつかむのが困難で、準備段階でかなり苦労があつた。継続することの大切さを感じた行事運営であつた。	3年ぶりの鷹山祭の開催は、生徒にとってかけがえのない思い出となったと考える。学校行事は、協調性や主体性の育成など、多くの教育的意義があるので、コロナの影響もあるが、可能なかぎり開催してもらいたい。 特別活動は、学校の独自性をアピールできる部分であり、また、生徒の成功体験に繋がる貴重な機会である。
	保護者20 楽しい学校行事があり、生徒は学校生活に充実感を感じている。	3.14	3.51	3.55	A		
	教職員20 学校行事の内容を精選して実施し、生徒の育成に効果的に活用している。	3.26	3.37	3.19	B		
	生徒21 行事の運営には、生徒会を中心にして生徒が積極的に関わっている。	3.35	3.28	3.33	B		
	保護者21 行事の運営には、生徒会を中心にして生徒が積極的に関わっている。	3.11	3.61	3.67	A		
	教職員21 行事の運営を通じてリーダーを育成し、生徒間の協力体制ができるよう指導している。	2.95	3.26	3.08	B		
学校の特色化	生徒22 生徒の興味・関心や進路希望に応じて、コース・類型が設置され、受けたい科目が開講されている。	3.32	3.20	3.24	B	2つのコースを中心に、学校設定科目を含めた多様な科目が開講され、生徒、保護者は概ね満足していることが伺えるが、多様な興味・関心に応えられるよう、引き続きよりよい教育課程を検討していく。	2つのコースに関する特色は、高く評価されているが、コース以外の生徒の満足度が懸念される。授業改善や学校行事の運営に加え、総合的な探究の時間の充実にも取り組んでもらいたい。
	保護者22 生徒の興味・関心や進路希望に応じて、コース・類型が設置され、受けたい科目が開講されている。	3.17	3.43	3.46	A		
	教職員22 生徒の興味関心や進路希望に応じたコース・類型が設置し、選択科目を開講している。	3.31	3.18	3.34	B		
	生徒23 特色のある教科学習や特別活動が経験でき、自分の能力を伸ばすことができる。	3.17	3.09	3.13	B	本年度1年生より新学習指導要領が実施され、求められる主体的・協働的で深い学びや教科横断による探究学習を展開できるよう、授業改善や学校設定科目、総合的な探究の時間の充実に組織的に取り組んでいく必要がある。	
	保護者23 特色のある教科学習や特別活動が経験でき、生徒の能力を伸ばすことができている。	3.06	3.34	3.32	B		
	教職員23 生徒の多様な能力を育成するために、工夫した独自の教育活動を行っている。	3.02	3.11	3.00	B		
	生徒24 教育活動を通じて、命や人権が大切にされており、安全・安心で快適な学校生活を過ごすことができる。	3.51	3.32	3.34	B	質問24では、教員と生徒との関係が概ね良好で、多くの生徒が「自分は大切にされている」と感じ、保護者も同様な思いを共有していることが伺える。校則の見直しもこのようなことの後押しをしていると考えられる。今後は、教職員の評価が高くなる取組が必要である。	
	保護者24 教育活動を通じて、命や人権が大切にされており、安全・安心で快適な学校生活を過ごすことができる。	3.31	3.60	3.60	A		
	教職員24 互いを思いやり、安全・安心で命や人権を大切にされた教育活動が行われている。	3.29	3.29	3.28	B		
	生徒25 コースでは、生徒が学校設定教科・科目の授業や、大学との連携や特別講義など、特色ある教育を受けている(コースの生徒対象)	3.56	3.42	3.43	A	生徒・教職員の評価は高い数値で安定し、保護者の評価も昨年に引き続き高い。担任をはじめ、教員の地道な取り組みとホームページ等での発信により、コースの教育活動への理解が進んでいると考えられる。引き続き、大学との連携や特別講義などの取組を通して、生徒の興味・関心と専門性を高め、確かな学力の育成に努めたい。	
保護者25 コースは、学校設定教科・科目の授業や、大学との連携や特別講義など、特色ある教育を展開している(コースの保護者対象)	3.44	3.70	3.68	A			
教職員25 コースは、学校設定教科・科目の授業や、大学との連携や特別講義など、特色ある教育活動を展開している。	3.67	3.63	3.61	A			
教員の組織体制	教職員26 各学年・部間の連携により組織的な教育活動を行っている。	3.10	3.05	3.11	B	教職員の減少の中、新たな学びに対応できるよう、校内組織の在り方を検討するとともに、部署や教職員間で一層連携しながら、教育目標の実現に努める。	それぞれが多くの業務をこなしながら連携するのは大変であるが、ぜひ一層の強化に努めてもらいたい。 働き方改革等を進めることで、よりよい教員集団になっていくことを願う。
	教職員27 教員は教育目標を共有し、その達成に向けて積極的に取り組んでいる。	3.19	3.18	3.14	B		